

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
1	第2部会	p.01	I. 策定の目的			幸せ	八尾を小さく思いすぎているのではないかと思う。内向き、八尾のこと、八尾の市民の幸せばかりを言うのではなく、世界の八尾という意識をもって、施策を検討することも必要ではないか。	委員ご指摘の通り、これからの時代において市民とともに進めるまちづくりが国際的にどう貢献できるのかをお示しすることも必要だと考え、I. 策定の目的の表現を工夫します。また、世界の中の八尾として、国際社会における重要な指針の1つであるSDGsへの貢献を見据え、具体的な取り組みを検討してまいります。
2	第3部会	p.01	I. 策定の目的			主体	P.1において、「市民」の定義が記載されているが、それ以降の章では「住みたい、住み続けたい」など、住民個人が中心となった文章となっている。5次総計の総括においても、法人や団体そして市民が様々な活動をしていることに着目した点から、もっと企業や団体がいきいきと活動する状況の記載もすべきではないか。	ご意見を踏まえ、市民が個人だけではなく、企業や団体がいきいきと活動する状態が分かるような表現に修正します。
3	第2部会	p.02	II. 八尾市を取り巻く社会経済環境	人口減少と少子高齢化の進行		人口見通し	p.10-11の人口見通しを第3章八尾市の将来についてではなく、第2章社会経済環境に入れた方がわかりやすい。現状と見通しから成長につなげていくというストーリーとしてはどうか。P.2の1つ目に人口減少は、マイナスのイメージではなく、八尾においては産業振興や女性の活躍推進、大学連携による学生生活などプラスイメージで記載してはどうか。	P10-11の人口見通しは、基本計画に定める様々な市の取り組みを進めた結果の想定人口も掲載しており、八尾市の将来として第3章に示しております。ただし、ご意見を参考に、表題を「4. 人口見通し」から「4. 推計人口と想定人口」に変更します。
4	第2部会	p.02	II. 八尾市を取り巻く社会経済環境	安全安心な暮らしと健康への関心の高まり		写真・グラフ	人口見通しをII. 八尾市を取り巻く社会経済環境の「人口減少と少子高齢化の進行」に位置付けるのであれば、その他の社会経済環境として、「安全安心な暮らしと健康への関心の高まり」についても、本文の下に犯罪件数の状況などのグラフなどを入れてはどうか。	p.2 II. 八尾市を取り巻く社会経済環境について、例えばこれまでの本市の人口実績や昨年度実施した未来の八尾1万人意識調査の結果など、それぞれの項目を表すようなデータのグラフを追加します。
5	第2部会	p.02	II. 八尾市を取り巻く社会経済環境	地域コミュニティの変容		地域	P2の地域コミュニティの変容において、「変容」という言葉を使っているが少し引っかかる。地域の関係性が希薄になり、ICT時代においては変わっていくということであれば、「再評価の時代」にしてはどうか。	「変容」にはその姿や形が変わるという意味があります。委員ご指摘の通り、ICTの時代となり人々のコミュニティに対する考え方や価値観の変化とともに、コミュニティのそのものの形も変わっていることを表すため、「変容」という言葉を使っております。
6	第3部会	p.02	II. 八尾市を取り巻く社会経済環境	地域コミュニティの変容		地域	本文2行目において「～まちづくりを進めてきました。しかし、～」と課題につながる文章になっています。5次総計の総括及びこれまでの総合計画の歴史を踏まえて地域と市民を論じるとすれば、様々な課題があるからこそ、5次総計で多くの取り組みを行い、実績上げてきたものの、まだなお課題が残っているという表現の方が良い。	委員ご指摘の通り、5次総計期間に取り組みを進めてきた結果、出てきた課題に対して、これまでの理念を引継ぎつつ、制度運用の見直しや新たな手法の検討などを進めることをp.17基本計画V-2. 共創と共生の地域づくりの実践にお示しております。ご意見を踏まえ、これまでの流れと6次総計における新たなポイントが分かりにくいと理解し、p.2（地域コミュニティの変容）及びp.8（2）共創と共生の地域づくりにおいて、5次総計期間における取り組みを踏まえ、6次での見直しを行う点について説明を追加します。
7	第2部会	p.02	II. 八尾市を取り巻く社会経済環境	地域コミュニティの変容		写真・グラフ	同じく「地域コミュニティの変容」についても、例えば活動の現況について、市民が見てわかりやすいものを工夫して掲載することで、市民と共有できるようにすることが重要ではないか。	市民との共有をしやすくできるイメージ図や写真を追加する等、製本時にデザインを工夫するようにします。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
8	第3部会	p.02	Ⅱ. 八尾市を取り巻く社会経済環境	地域コミュニティの変容		性	p.2 下から3行目において、多様な市民の中で「性の多様性」が触れられていません。また6次総計においては、女性活躍が施策として統合され、また、部会で女性は自分ひとりとなっている。性の多様性がどのような形で盛り込まれるのかに関心がある。	ご意見を踏まえ、多様な市民として「性別」を追加します。施策の内容については今後の審議をふまえ表記を検討いたします。
9	第3部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像		幸せ	幸せの感じ方は個人個人異なり、ここに書かれている幸せが何を意味しているのか疑問に思う。町会未加入の人も、その方が幸せという人もおられ、自治振興委員会としては加入者に視点を置いたまちづくりを考えるとともに、校区まちづくり協議会とどのように付き合っていくかが課題となっている。	これまでの策定過程において、アンケート調査やワーキング会議を実施し、その中でも幸せの形や感じ方は一人ひとり異なり、多様であること、またそれぞれの幸せを市民が求め実感できるまちになった状態を考え、行政素案を取りまとめでまいりました。ご意見を踏まえ、その考え方が示されておらず分かりづらいと理解し、P4（幸せ成長都市）という表現を見直し、市民が幸せを感じ、その幸せの中に成長があることが分かるよう「しあわせを感じ成長する八尾」とします。その中で幸せと成長の状態を説明する文章を追加します。
10	第3部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像		幸せ	幸せの定義付けが必要ではないか。個人的には心が満たされることだと認識している。	これまでの策定過程において、アンケート調査やワーキング会議を実施し、その中でも幸せの形や感じ方は一人ひとり異なり、多様であること、またそれぞれの幸せを市民が求め実感できるまちになった状態を考え、行政素案を取りまとめでまいりました。ご意見を踏まえ、市民の幸せが分かりやすく表現されていないと理解し、P4（幸せ成長都市）という表現を見直し、市民が幸せを感じ、その幸せの中に成長があることが分かるよう「しあわせを感じ成長する八尾」とします。その中で幸せと成長の状態を説明する文章を追加します。
11	第3部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像		幸せ	幸せを追求する権利が保護されている、という排除や差別がないことが良いことであり、そういった環境が八尾にあることをめざすことで良いのではないか。	これまでの策定過程において、アンケート調査やワーキング会議を実施し、その中でも幸せの形や感じ方は一人ひとり異なり、多様であること、またそれぞれの幸せを市民が求め実感できるまちになった状態を考え、行政素案を取りまとめでまいりました。ご意見を踏まえ、多様な市民の幸せを考えていくという考え方を明確に示すため、P4（幸せ成長都市）という表現を見直し、市民が幸せを感じ、その幸せの中に成長があることが分かるよう「しあわせを感じ成長する八尾」とします。その中で幸せと成長の状態を説明する文章を追加します。
12	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像		幸せ	「幸せ」というフレーズを出しすぎるのはどうか。何か見せたくないものがあって、あえて出しているというように見られることもある。	これまでの策定過程において、アンケート調査やワーキング会議を実施し、その中で市民の「幸せ」とは何かということを中心に検討を進め、行政素案を取りまとめでまいりました。市民が主役となり、市民主体でこれからの八尾のまちづくりを進めていくため、6次総計では「幸せ」を大切なキーワードとしたいと考えております。
13	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像		幸せ	将来都市像は素晴らしいが、幸せの実感や幸せは十人十色である。幸せは抽象的とは言わないが、もっと具体性や実効性があると良い。この前提で幸せという言葉を使うのであれば、“ひらがな”で表記した方がよい。	市民一人ひとりが、自分らしい幸せを感じられるまちでありたいという想いを込めておりますが、漢字では多少の堅苦しさや仰々しさがあることから、委員ご提案のとおりひらがなで表記いたします。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
14	第3部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)	幸せ	幸せは、経済的な観点ではなく、人と人のつながりがあることが幸せと考える。	委員ご指摘の通り、幸せを実感するにあたっては、これまで本市が大切にしてきた人と人のつながりが不可欠だと考えており、そのため将来像の1つとして(つながる)を選んでおります。
15	第3部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)	幸せ	声かけのある地域に住んでおり、幸せを感じている。古い考え方もかもしれないが、古いことにも良さがあり、計画に取り入れてほしい。	委員ご指摘の通り、人と人のつながりは時代を超えて大切にされてきたものであり、本市のまちづくりにおいて「つながる」は欠かせないキーワードであると位置付けております。6次総計においても、お互いが声をかけあい支えあう関係を大切にしたいと考え、P3本文に記載のとおり、(つながる)を将来像の1つとしております。
16	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)	主体	将来都市像に「つながるつづかがやく」とあるので、企業同士もつながることを入れてもらえればと思う。	ご意見を参考に、特に(つながる)において個人だけでなく企業や団体も主体としてつながること分かるよう明確な表現を加えます。
17	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)	主体	市民の生活は書かれているが、企業活動にももう少し触れていただければと思う。	ご意見を参考に、企業や団体も主体としてつながること分かるよう明確な表現を加えます。
18	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)		P3のつながるの説明文にある「少しおせっかい」というフレーズはわかりやすい。全てに入れるのは難しいが、要所に砕けた言葉を入れるのは良いと思う。	ご意見を参考に、要所で砕けて伝わりやすい表現を入れるよう工夫します。ただし、「少しおせっかい」というフレーズについては、砕けて伝わりやすい表現と評価いただきましたが、人によってはマイナスイメージと捉えられることもあり、委員皆さまのご意見を踏まえ、修正を加えます。
19	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)		(つながる) 情に深いまちであると思うが、「おせっかい」には、いらぬおせっかいという反対の意味もあるので、温かい心、思いやりのある心など、違う言葉に置き換えてはどうか。	ご意見を参考に、文言を修正します。
20	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つながる)		SDGsの理念として「1人も置き去りにしない」という考え方を踏まえ、「よりそう」という表現を本文に入れてほしい。	ご意見を参考に、多様な市民が共に助け合い認め合いながらよりそって暮らすこと分かるよう文言を追加します。
21	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つづく)	主体	基本構想なのである程度の汎用性や柔軟性を考えると、これくらいの表現で良いと思う。ただし、(つづく)の観点において、事業を次世代へつなげる際も他市へ出ていかにしないようにする施策展開が大事だと思う。八尾市内で商売を続け、働く人も八尾に住み続けることを市が支援することで、発展につながると思う。	ご意見を参考に、特に(つづく)において個人だけでなく企業や団体も主体として、次世代に続くこと分かるよう明確な表現を加えます。
22	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(つづく)	主体	子どもや若者がつづくとあるが、親から子に、次の世代に魅力を伝えることも1つの方向ではないか。	ご意見を参考に、特に(つづく)において個人のなかでも子どもだけでなく、親から子など次世代につづくことで、対象が親や子どもの周囲の大人も含まれること分かるよう明確な表現を加えます。
23	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像	(幸せ成長都市)	主体	「成長」というキーワードが、人口や経済の観点だけでなく、市民主体でという内容がうかがえる説明であったので、もう少しその点がわかりやすく明確に伝わるものであればよいと思う。	ご意見を参考に、(つながる)(つづく)(かがやく)という3つの将来像に向けて進んでいる「成長」の主体が市民であることが分かるような表現を加えます。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
24	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像			(つながるつづくかがやく) を考えていくときに、高齢者や子どもが元気である必要がある。子どもや高齢者が活気を持つためには、予防医学に力を入れる必要があり、また教育の良さをさらに発揮することも重要である。具体的な事業で展開していく必要がある。	ご意見を参考に、事業立案において具体的な取り組みを検討してまいります。
25	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像			8年、10年先を見据えて、SNSやfacebookなどで情報を発信するなどして、八尾に住みたい、行ってみたいと思えるまちであってほしい。	ご意見を参考に、事業立案において具体的な取り組みを検討してまいります。
26	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像			子どもにとって住みやすいまちであることに加え、一人暮らしなど社会的な資源を持たない高齢者が増える中で、災害時でも安心して暮らせるまちをめざしてほしい。	p.3 将来都市像の(つながる)において、1行目以降に八尾市民の気質として大切にしてきたつながりをこれからも意識すること、また4行目以降では、そのつながりを多様な主体が共に助け合い認め合いながら維持していくという想いを記しております。 また、災害時でもそのつながりを維持し、乗り越えていくまちをめざすことを、p.5 目標②もしもの時への備えがあるまちとして高齢者も含め災害時でも誰もが安心して暮らせるまちをめざすことを記しております。
27	第1部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	1. 将来都市像			公共性や持続可能性、SDGs、人権問題や自己実現の支援といった必要なキーワードが将来都市像の(つながる・つづく・かがやく)という3つの言葉に含まれていると理解できる。	委員ご指摘の通り、この3つの将来像において、誰も取り残さず、すべての市民に光があたる、活気ある八尾を輝く市民の活躍で創り出していくという想いを込めております。
28	第3部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		幸せ	幸せについて具体的に見えづらい。目標が幸せにどのようにつながっていくかというストーリーがあると良いのではないかと。 例えば目標①では子供の成長と見守る周囲の大人の成長という構造になっているが、子ども、周囲の大人の幸せは同じなのか。市民にわかってもらうには、もう少しきめ細かに丁寧に伝える方が良い。	これまでの策定過程において、アンケート調査やワーキング会議を実施し、多様な市民の様々な幸せを想像しながら理想のまちを検討し、それを『幸せのストーリー』として取りまとめ、それらを参考に行政素案の策定を進めてまいりました。 委員皆さまのご意見を踏まえ、6つのまちづくりの目標において幸せの主体や市民の状態が具体的に示されておらずイメージしづらいと理解し、説明を追加します。
29	第3部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		幸せ	幸せは多様であり、どう達成を図るか。現時点では目標はこのような表現で良いかと感じている。今後3回の部会議論において深めていきたい。	まちづくりの目標と取り組み方向に沿ってさまざまな取り組みを進めることで、幸せの達成につながると考えております。
30	第2部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		広域	まちづくりの目標と取組方向が全体的に八尾の中だけ考えている印象がある。例えば、八尾の水は市外から、ごみを焼却した後は大阪湾の埋立処分場へ行くなど、生活の中で市外との関連は大きく、もっと広域的な観点も含めた表現が必要なのではないか。	ご意見を踏まえ、まちづくりの目標それぞれに広域的な観点を踏まえた表現を追加いたします。
31	第2部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		広域	基本構想では現状の記載内容で良い。目標①～⑥に企業と市民、外国人との共生を意識できるようにバランスよく配置してはどうか。目標②は、八尾市内で完結しているが、広域的な視点も必要ではないか	ご意見を踏まえ、まちづくりの目標それぞれに広域的な観点を踏まえた表現を追加いたします。
32	第2部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		写真・グラフ	各まちづくり目標と取り組み方向がどう成長につながっているかを、目で見て分かるイメージ図で示すとわかりやすい。	幸せや成長という将来都市像と各目標とのつながりを分かりやすくできるよう、表現を工夫します。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
33	第2部会	p.03	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向		写真・グラフ	まちづくり目標や取り組み方向は様々なイメージが浮かぶ柔軟な表現なので、読んだ人がイメージを持ちやすいよう写真などを入れる工夫が必要ではないか。また、今の状況からの説明があると市民の生活を考えることが伝わると思う。	市民との共有をしやすくできるイメージ図や写真を追加する等、製本時にデザインを工夫するようにします。
34	第2部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向			目標④で、地球環境のことを意識しても、「八尾に暮ら続けたい」という思いにはつながらないと思う。地球温暖化が引き起こす台風や猛暑など、市民一人ひとりが解決に向けて取り組んでいくことを記載するべきである。	ご意見を踏まえ、まちづくりの目標の表記を修正いたします。
35	第1部会	p.05	Ⅲ. 八尾市の将来について	2. まちづくりの目標と取り組み方向	全目標		8年後というのは、地域の姿が比較的想像できる期間だと思うので、目標や基本構想全体の中に、8年後の姿を想像できるような表現を意識して入れる必要がある。	6つのまちづくりの目標については、34の施策が互いに組織や分野をまたいで連携し、取り組みを進めた時の姿を描いており、大きな概念や考え方をまとめた抽象的な表現が多くなっております。より具体的な内容については基本計画および実施計画でお示しいたしますが、ご意見を踏まえ、主体を明確にするなど、具体的な姿が想像できるような表現を心がけてまいります。
36	第1部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	地域コミュニティが変容していく中で、隣近所と顔がつながる関係が築けるまちをめざし、地域社会でお互いが助け合いながらしっかりと地域で暮らして続けられる社会を実現していく。この共生社会というキーワードには、そういったことがしっかり含まれているという印象を持った。	委員ご指摘の通り、共生という言葉に「互いに助け合い、支えあいながら身近な地域で共に生きていく」という意味を込めており、本文20行目以降に記しております。
37	第1部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	これまで主に一人暮らし高齢者を支援させていただいていたが、高齢世帯にも健常者のみならず何かしらの障がいをお持ちの方もたくさんいる。とくに災害時に備えて、一人暮らしに限らず、高齢世帯の方に日ごろから何らか支援できればと思う。	生活に身近な地域の皆様による支援は、非常に細かな部分まで行き渡りやすいことから、行政と市民だけでなく市民と市民の協働も広げていきたいと考えており、本文23行目以降に記しております。
38	第3部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	自治振興委員が1年で交代される状況を耳にしており、近年多発する災害状況を考えると、防災の取り組みへの影響が心配である。	自治振興委員の任期については、町会・自治会によって1年交代のところもありますが、自治振興委員会においてもすでにご検討されている課題だと考えております。今後のまちづくりにおいては、防災の取り組みも含め、地域活動については町会・自治会等が基本単位と基礎となりながらも、誰もが参加できる校区まちづくり協議会の強みを生かして、地域・行政そして関わる多様な主体がともに取り組んでいくことをp.18(2)実践の内容においてお示しております。
39	第3部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	体制づくりについては、自治振興委員会でも悩みとなっている。現状では、町会費を収める人が町会員と言うが、加入率の低下などを踏まえ、町会に対する認識を変えることで解消できるが増えると考えている。町会のあり方や考え方を統一しなければ、まち協との連携も難しいと思う。	委員ご指摘の通り、本市の地域活動は町会など様々な地域団体の活動により支えられていますが、地域や町会に対する考え方は変化しており、加入率の低下等今後関わる人材が減少する危機にあります。6次総計においては、これまでの理念は継承しつつ、制度運用を見直しながら、誰もが参画できるというまち協の強みを活かして、地域のまちづくりを進めていくと考え、P17～P18において地域のまちづくりの実践を定めております。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
40	第2部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	主体	市民と地域住民、まちづくりと地域づくりと書きぶりを使い分けしているが、市民から見るとわかりにくい。	委員ご指摘の通り、市民と地域住民は、その地域に住んでいないが関わる人を含むか含まないかで意味が異なり、まちづくりと地域づくりについても市全体を対象にするのかどうかで意味が異なるため使い分けをしております。対象を明確にするために、使い分けが必要ですが、似た用語を重複して使用することで、分かりづらさが増しているのではと考え、市民は市民のままとし、住民は“住んでいる人”と表記することとします。また、市全体のまちづくりを“まちづくり”とし、地域それぞれで行う地域づくりを“地域のまちづくり”として統一することとします。
41	第3部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	共創共生は、地域分権としてこれまで10年以上取り組んできた中で、出てきた課題を踏まえてバージョンアップしたり、新たな手法を取り入れたりすると理解したが、このままで市民に明確に伝わるのか疑問に感じる。	委員ご指摘の通り、5次総計期間に取り組みを進めてきた結果、出てきた課題に対して、これまでの理念を引継ぎつつ、制度運用の見直しや新たな手法の検討などを進めることをp.17基本計画V-2. 共創と共生の地域づくりの実践にお示しております。ご意見を踏まえ、これまでの流れと6次総計における新たなポイントが分かりにくいと理解し、p.2(地域コミュニティの変容)及びp.8(2)共創と共生の地域づくりにおいて、5次総計期間における取り組みを踏まえ、6次での見直しを行う点について説明を追加します。
42	第2部会	p.08	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(2) 共創と共生の地域づくり	地域	「つながるつづくかがやく」はわかりやすい。一部の報道で八尾のベトナム人との共生について取り上げられていた。八尾ではすでに共生が進んでいる。P8の共創と共生の地域づくりの記載で、外国人との共生について良い表現があれば入れてはどうか。	これからの共創と共生の地域づくりを進めるにあたり、「まちづくりに関わる機会がなかった市民など、多様な立場の市民が地域活動に関わるきっかけを増やし、」と本文下から2行目にお示しており、外国人も含めた多様な立場の市民が地域活動に参画できるようにすることをお示しております。
43	第3部会	p.09	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(3) 幸せ成長のための都市づくり	都市づくり	都市づくりについての説明はあるが、これがどのように幸せに結びつくかを具体的にわかりやすく記載するべき。	本項目においては、まちづくりの推進方策の1つとして、(1)市全体としては分野における横断的な施策推進を図るという考え方及び(2)地域のまちづくりの考え方とともに、都市基盤いわゆるハード面でのまちづくりのめざす姿を描いております。委員ご意見を参考に、第3章の将来都市像において幸せと成長を定義するとともに、そこへのつながりを意識した表現となるよう工夫いたします。
44	第2部会	p.09	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(3) 幸せ成長のための都市づくり	都市づくり	P9は交通、防災、土木的な視点の記載となっているが、幸せ成長とはどうつながるのか。他のまちづくりの推進方策とは違い具体的な記載となっている。また何をもちって幸せとするのがわかりにくい。	基本計画にお示しする、個別の施策につながる章と考えております。まちづくりの推進方策として、分野横断的な視点をもち、連携を進めるとともに、共創と共生の地域づくりを進めることで、このような都市づくりであればという想いをお示しており、どれかひとつだけで幸せになるものではないと考えております。委員ご意見を参考に、表題を見直すとともに、具体的すぎる点を修正し、将来都市像へのつながりを意識し、めざす姿としてイメージできる文章となるよう工夫いたします。
45	第2部会	p.09	Ⅲ. 八尾市の将来について	3. まちづくりの推進方策	(3) 幸せ成長のための都市づくり	都市づくり	基本構想のP7、8を受けて、基本計画のP15、17につながるのわかりやすいが、P9が基本計画には記載がない。何につながっているのかわからない。計画全体の構成について、整理・検討してはどうか。(例えば、幸せ成長のため都市づくりは、ハード面での記載だけではなく基本構想をまとめた文章に変更するなど)	本項目においては、まちづくりの推進方策の1つとして、(1)市全体としては分野における横断的な施策推進を図るという考え方及び(2)地域のまちづくりの考え方とともに、都市基盤いわゆるハード面でのまちづくりのめざす姿を描いております。委員ご意見を参考に、表題を見直すとともに、具体的すぎる点を修正し、将来都市像へのつながりを意識し、めざす姿としてイメージできる文章となるよう工夫いたします。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
46	第3部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	人口減少は国の動向等から鑑みると、やむを得ないと考えている。人口見直しで転入者の増加をめざしているが、どのような人に住んでほしいかも大事と考える。	委員ご指摘の通り、人口減少は避けられない時代であると認識しております。その中でも、Ⅱ. 社会経済環境における地域コミュニティの変容やⅢ. 3(2) 共創と共生の地域づくりにおける考え方、また国の地方創生にかかる考え方も踏まえ、若者世代や子育てファミリー世代の定住を図る視点で取り組みを進めていきたいことを、P10本文15行目以降に記しております。
47	第3部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	人口の見直しからの総計でいいのか。他にどのようなことが盛り込めるのかに関心がある。	近年のトレンドから推計される人口だけでなく、八尾市の将来として、基本計画に示す様々な取り組みを進めることで定住につなげた結果想定される想定人口を八尾市の将来として第3章に示しております。人口見直しだけでなく、若い世代に来てもらい、住み続けてもらうための取り組みを進めることで想定人口をめざしていくことをお示しております。
48	第2部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	人口見直しについて、第3章に記載してあるのは意味があると考えている。推計だけを記載する場合もあるが、想定人口が記載しているのは、八尾市の決意表明と受け止められる。グラフは、軸の設定など、わかりやすくした方がよい。	ご意見を参考に、グラフの原点を0に修正いたします。また、近年のトレンドから推計される人口だけでなく、八尾市の将来として、基本計画に示す様々な取り組みを進めることで定住につなげた結果想定される想定人口を八尾市の将来として第3章に示しております。委員ご指摘の通り、若い世代に来てもらい、住み続けてもらうための取り組みを進めることで想定人口をめざしていくことをお示しております。
49	第2部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	推計人口と想定人口の違いについて、説明していただきたい。	推計人口は近年の人口動態がそのまま継続すると仮定して推計したもので、6次総計期間の令和10年度に24.4万人となります。想定人口は近年の人口動態の内20代30代転出入が均衡、合計特殊出生率を1.8と仮定して推計したもので、令和10年度に25.4万人となります。若い世代に来てもらい、住み続けてもらうための取り組みを進めることで想定人口をめざしていくことをお示しております。
50	第2部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	推計人口のグラフが大幅に減るように見える。減ることを強調してみせる場合は良いが、市民へアピールするものとしてはふさわしくない。また、人口だけでなく、就業者数を予測されていて、働く人がそれほど減少しないのであれば、そのデータを掲載することも良い。	ご意見を参考に、グラフの原点を0に修正いたします。また、近年のトレンドから推計される人口だけでなく、八尾市の将来として、基本計画に示す様々な取り組みを進めることで定住につなげた結果想定される想定人口を八尾市の将来として第3章に示しております。就業者数等の予測を行っておらず、人口見直しとしては、推計人口と想定人口及び高齢化率を掲載しております。
51	第1部会	p.10	Ⅲ. 八尾市の将来について	4. 人口見直し		人口見直し	将来人口が減っても魅力のある町であってほしい。子どもが増えれば活気が出ると思うので、何とか人口を増やしていくことを打ち出していくべき。特に子どもを増やすことが重要で、そのためにはさらに産み育てやすい地域にしていけることが必要ではないか。	第6次総合計画期間中に2025年を迎え、今後も全国的に自然減が続く中において、「関係人口」の考え方も踏まえた定住につながる取り組みをあらゆる分野において推進し、社会増を増やしていくことをめざしています。加えて、国の地方創生の考え方を踏まえ、若者世代とりわけ子育てファミリー世代を中心とした世代の定住を図り、子どもを産み育てやすいまちをめざします。具体的な取り組みについては、各施策の事業検討において分野間および施策間の連携を意識して組み立ててまいります。

No	部会名	頁	章	項	枝項	キーワード	委員ご意見	市の考え方
52	第2部会	p.12	IV. 総合計画の構成と推進	1. 総合計画の構成			基本構想の期間について、5次では10年、6次は8年としている。期間について委員各位のご意見を聞きたい。	委員皆さまのご意見として、8年間という期間に違和感はなく、これ以上短すぎると総合計画として物足りないというご意見をいただきました。目まぐるしく変化する社会情勢に迅速かつ柔軟に対応するため、また中長期的な未来をある程度具体的にイメージでき、市民と共有できるものとして、8年間を計画期間と考えます。
53	第3部会		新規				総合計画の構成に「背景」があった方が良いのではないかと。これまで第1次総計から第5次総計まで進めてこられ、それらの長い歴史を踏まえた背景が理念として書き込まれないのか、という思いがある。	6次総計では、5次総計と異なり、まずはじめに総合計画策定の目的を述べています。これは、平成23(2011)年の地方自治法改正に基づき、基本構想の策定義務規定が廃止されたなか、八尾に関わる全ての市民が「幸せ」を感じられるまちをめざし、長期的な視点で計画的な市政運営を進めていくことを市民と共有するためです。委員ご指摘の通り、これまでの歴史を踏まえ、八尾市の将来都市像やまちづくりの目標が形作られてきましたが、6次総計期間において何を重視し、どのような方向性で市政運営を進めていくのかをまずお示しするための構成としております。これまでの背景につきましては、基本構想の参考資料として掲載することを考えております。
54	第3部会					進行管理	産業の発展や人口など数字で表しやすいものだけを追うのではなく、幸せをどう感じるかという視点も良い。ただ、これを市民とどう共有していくかが課題である。SDGsといった誰もがイメージしやすい尺度も必要であり、基本計画に指標の設定がないが、評価方法やKPIの設定などをバランスを鑑みて内容を調える必要がある。	基本計画については、実施計画における指標も含めた施策評価の経年実績をふまえ、進捗管理を行うことを想定しております。委員ご意見を参考に、指標に偏ることなく、また市民との共有も鑑み手法の検討を進めます。
55	第3部会					進行管理	評価については、5次総合計画の総括において、指標がわかりづらいという意見もあったことから、今回は基本計画には指標を設定していない。ただ、指標がどこにも無い訳にもいかないのでは、ご意見をいただければと考えている。	基本計画については、実施計画における指標も含めた施策評価の経年実績をふまえ、進捗管理を行うことを想定しております。委員ご意見を参考に、指標に偏ることなく、また市民との共有も鑑み手法の検討を進めます。
56	第3部会					進行管理	5次総括において、評価は非常に難しく、対象となる施策にふさわしい指標かどうかをきちんと考えて作らなければ、あまり効果がなく、改善が必要であると提言した。その点を踏まえ、今回は基本計画から評価指標を外していると理解している。	基本計画については、実施計画における指標も含めた施策評価の経年実績をふまえ、進捗管理を行うことを想定しております。委員ご意見を参考に、指標に偏ることなく、また市民との共有も鑑み手法の検討を進めます。
57	第3部会					進行管理	指標を入れない点に理解はするが、無いと何をすればよいのか分からない。インターネットの発展を参考にして、あらかじめ評価指標を決めるのではなく、可能性の広がりや市民の動きから生まれてきたものを、「このように評価してはどうか」と議論して評価していく手法はどうか。	基本計画については、実施計画における指標も含めた施策評価の経年実績をふまえ、進捗管理を行うことを想定しております。委員ご意見を参考に、指標に偏ることなく、また市民との共有も鑑み手法の検討を進めます。
58	第2部会					進行管理	具体的に将来都市像やまちづくり目標の実現の見通しがあればわかりやすい。	将来都市像の実現に向けた進行管理については、ご意見を参考に基本計画の評価手法と共に検討してまいります。